

# 大商大豊山ゼミナール八尾市シルバー人材センター

## 「ふれあい野菜広場」現地調査報告



### 【視察の目的】

2021年6月16日私たち大阪商業大学豊山ゼミの5人は八尾市シルバー人材センター（SC）で催されている「ふれあい野菜広場」視察のため、八尾市SCを訪問しました。

視察の目的は、学祭で使用する可能性のある野菜の調達交渉、広場の運営方法、始めた動機、会員である生産者ならびに購入者の思いを知ることでした。

### 【ふれあい野菜広場とは？】

ふれあい野菜広場は年末年始を除く毎週水曜日・土曜日の9:00～12:00に開かれており、会員の方が作った野菜・果物を、自ら値付けて販売しています。会員の方が主体となって運営されています。

『ふれあい野菜広場』販売の様子



### 【たくさんの種類の野菜を販売！】

たくさんの種類の野菜を販売しており（この日は25種類、時にはヤーコン・菊芋などの珍しい野菜も販売）、野菜が売れてなくなると、会員手作りの小物（マスクや布草履など）も販売していました。机の上を寂しく見せない工夫とのことでした。



販売されているたくさんの野菜(写真左2枚)と布の小物(写真右)

### 【購入された方のご意見】

購入された方からお話もうかがいました。みなさん、「無農薬・減農薬で安心・安全、おいしい」というご意見でした。また「地産地消になってよい」という意見もありました。当日はじめて来場され「道の駅にたくさん足を運び、よい野菜を探すのが好き」という方は、「私の目から見ても、この野菜は新鮮で、なおかつ安い」と驚かれていました。別の方は、「この野菜は新鮮なので長持ちする」とおっしゃっていました。インタビューして、「ふれあい野菜広場」の野菜は、品質と価格で評価されていることがわかりました。私たちも、先生が購入してプレゼントしてくれた枝豆（八尾の特産ということは当日知りました）を家に帰って食べました。小ぶりでしたが、歯ごたえがよく、とてもおいしかったです。



インタビューの様子



八尾市 SC 業務係 係長  
石黒聖香さん(写真右上)と  
納品者の山本千秋さん  
(写真左下)

### 【山本千秋さん（会員で生産者で広場運営委員）のお話】

「ふれあい野菜広場」の野菜の栽培及び出品に生きがいを感じ、今では計3か所、50坪の畑で野菜を栽培している。肉体的にはきついこともあるが、かかりつけ医からは「筋肉が違う」とほめられてうれしい。やる以上は、野菜広場に関して、大阪一を目指して頑張りたい。会員とセンター職員との関係性が良好であるから「ふれあい野菜広場」はここまで続いている。

ゼミ感想：山本さんは74歳とのことでしたが、非常にお元気でお若く見えました。SCの効果？

### 【八尾市 SC 業務係 係長 石黒聖香さんのお話】

「ふれあい野菜広場」は60歳代の求人はあるが、70歳以上の会員への働き口が少なかったため、始めた。自家栽培している野菜を出品してもらったり、八尾市 SC として借りた休耕地を会員に委託して栽培・出品してもらっている。市の要請に従って、生産履歴報告書（生産履歴の記録）を作成して信頼を確立したり、国の補助金を利用してバーコードを導入し多くの会員が苦勞せずに販売できる体制も整えた。今後は露地栽培だけでなく、ビニールハウス栽培も視野に、新たな休耕地が見つかれば広げていきたい。ほかにも、コロナ等で生活に困っている人に対して支援を計画している団体に、売れ残った野菜の提供を通して協力することも検討している。

### 【今回の現地調査を振り返って】

「ふれあい野菜広場」に関わるすべての方がいきいきとされ、会員とセンターとの一体感のあることが、規模拡大や評判のよさにつながり、「ふれあい野菜広場」が長続きしている秘訣だと感じました。今回の取材への協力をいただきありがとうございました。非常に良い経験となりました。右は「みんなで、ハイチーズ！」している集合写真です。マスクでわかりませんが（笑）。

